

令和7年度 令和の学び・新しい時代の教育委員会 研究計画

委員長	久保 勝哉	(福島小)
副委員長	岩田 祥	(南木曽小)
委員	黒岩 航	(木祖中)
委員	末木 幸司郎	(南木曽中)

1 本年度の研究テーマ

「教育」というフレームをほぐし、新時代に求められる資質を培う学びへ

2 テーマ設定の理由

VUCA の時代をよりよく生きること (well-being), 自分らしく生きること (being yourself) が求められている現代。新時代に求められている資質 (key-competency) を培うために、教育観や学校づくり, 日々の授業づくりにおける一層の変革が求められている。これまで信濃教育が重視してきた子どもと共に創造する授業の文化を受け継ぎつつ, 新しいスタイルの学びについて調査及び実践を通して, その価値について考察を深めていきたい。

子どもファーストの学びや探究的な学び, 単元内自由進度学習をはじめとする個別最適な学び, 学び合い*1, 『学び合い』*2 などの協働的な学び, リフレクション型の学び, プロジェクト型学習 (PBL), 横断的教育 (Transdisciplinary Education), 遊びと学びの接続 (Playful-Learning), 学びほぐし (Un-Learning, 学習棄却), AI と CBT, 認知行動療法を組み合わせた ICT 活用学習, AR/VR/MR 教材活用学習, 遠隔教育, 小規模校・少人数ならではの学び, 学びへ誘う環境デザイン, 子どもたちが行きたくなる学校デザインなど, 新しい学びのスタイルや学校づくりが模索されている現代。それらの実践を前向きにとらえ, よさを発信していきたい。

また, 教育方法論の枠組みにとどまらず, 教師教育の視点や子ども観転換の視点, 教師自身のメタ認知など, 教師自身の価値観変革, マインドセットに関する研究についても同様に考察を深めていきたい。

教育というフレームを柔軟に「学びほぐす」(Un-Learn, 学習棄却) アプローチによって, 固定概念からの脱却を産み, あらには, 木曽の地ならではのよりよい教育を模索するきっかけとなることを願い, 本テーマを設定した。

*1…佐藤学ら「学びの共同体」理論を提唱する学派の学習形式。個別追究を相互参照で進めていく

*2…西川純らが提唱する教育理論, 学習形式。学習の全員達成を目指す協働的な学び。呼称: カッコ学び合い

3 研究日程と内容

第1回 5月19日(月)委員会①「研究テーマ, 年間計画作成」オンラインにて

第2回 6月27日(金)委員会②「単元内自由進度学習公開授業」(兼: 信州大学教職大学院研修・福島小 久保)

個人視察① 学校法人 佐木学園 揖斐幼稚園 (岐阜県 岩田祥・南木曾小)

個人視察② 学校法人 きのくに子どもの村学園 (和歌山県 久保勝哉・福島小)

個人視察③ 私立桜丘中高等学校 (東京都 末木幸司郎・南木曾中)

第3回 1月16日(金)委員会③「今年度の研究のまとめ検討会」オンラインにて

4 研究内容

視点①「子どもたちが心からわくわくしているか」

「学びの主体性」(自律性, 自己調整力)の大きな動機づけは, 内発的な動機づけに支えられた子どもたちの変化欲求である。子どもたちが教師の言うことに従い, 静かに椅子に座って学んでいることだけが「よい」とは, 限らない。授業を観る上で, 授業における統制システムや評価システムとしての合理性の追究ではなく, 真なる子どもたちの前向きな言動, 心理に触れられるようにしたい

視点②「子どもたちの社会的文脈やユニークさを尊重できる研究へ」

子どもたちへの当事者意識に寄り添い, 子どもたち自身のストーリーやユニークさを語り合えるようにしたい。テストなどの数値変化や短期的な成果, データのみで子ども観を語らないようにしたい

視点③「学校全体にながれる心地よさや公平さ, well-being を追究する」

学校にいる一人の人間としての子ども自身の豊かさ, 教師自身の豊かさを追究する。また, 競争, 比較, 煽りなど, 不安感や劣等感を増長させる可能性のある教育的要素についても併せて考察していく

5 研究調査上の留意点

それぞれの教育方針や教育方法のよさを考察していく上で, 評価テストをはじめとした短期間における数値的評価などの成果を出すことが本研究の目的ではない。子どもたちのありのままの様子を当事者意識を持って我々がとらえ続けるまなざしを持つことが特に重要である。子どもたちが, 真の学びの自律者になっているか, 本当にわくわくしているか, 安心して学びに取り組んでいるかという視点で子どもたちの学びの具体を追っていきたい。また, 教師自身の前向きな気持ち, 後ろ向きな気持ちなど, 全てを総合的に振り返りながら研究を進めていけるようにしたい。